

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 4 月 5 日 (2007.4.5)

【公開番号】特開 2005-206497 (P2005-206497A)

【公開日】平成 17 年 8 月 4 日 (2005.8.4)

【年通号数】公開・登録公報 2005-030

【出願番号】特願 2004-13482 (P2004-13482)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/72 (2006.01)

A 6 1 K 8/19 (2006.01)

A 6 1 K 8/18 (2006.01)

A 6 1 Q 1/02 (2006.01)

A 6 1 K 8/00 (2006.01)

A 6 1 Q 1/10 (2006.01)

A 6 1 Q 1/12 (2006.01)

A 6 1 Q 17/04 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 7/00 J

A 6 1 K 7/00 B

A 6 1 K 7/02 P

A 6 1 K 7/032

A 6 1 K 7/035

A 6 1 K 7/42

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 2 月 16 日 (2007.2.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

1) 架橋型オルガノポリシロキサンと 2) 粉体とを含有する固形化粧料に於いて、1 気圧、25 の条件下で流動性を有する油性成分(但し、架橋型オルガノポリシロキサンを除く。)を 20 ~ 50 質量% 含有することを特徴とする、化粧料。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 7】

1) 架橋型オルガノポリシロキサンと 2) 粉体とを含有する固形化粧料に於いて、前記架橋型オルガノポリシロキサンと 1 気圧、25 の条件下で流動性を有する油性成分(但し、架橋型オルガノポリシロキサンを除く。)との混合物の 20 における粘度が、400 ~ 1000 ミリパスカル・秒であることを特徴とする、化粧料。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【 0 0 0 3 】

一方、架橋型オルガノポリシロキサンは、化粧品用の原料として、低分子量のシリコンオイルに溶解・分散させた形態で市販されており、このものと粉体とを組み合わせる化粧料に含有させる技術は既に知られているが、（例えば、特許文献 1、特許文献 2、特許文献 3、特許文献 4、特許文献 5、特許文献 6 を参照）1）架橋型オルガノポリシロキサンと 2）粉体とを含有する固形化粧料に於いて、1 気圧、25 の条件下で流動性を有する油性成分（但し、架橋型オルガノポリシロキサンを除く。以下同様。）を 20～50 質量％含有する構成の化粧料は全く知られていないし、このような構成を取ることにより、優れた演色性を有するメイクアップ化粧料が得られることも全く知られていない。

## 【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【 0 0 0 4 】

【特許文献 1】特開 2 0 0 1 - 2 7 8 7 3 1 号公報

【特許文献 2】特開平 0 7 - 2 3 3 0 2 9 号公報

【特許文献 3】特開平 0 6 - 2 1 1 6 2 0 号公報

【特許文献 4】特開 2 0 0 3 - 5 5 1 5 0 号公報

【特許文献 5】特開 2 0 0 3 - 2 7 7 2 3 3 号公報

【特許文献 6】特開 2 0 0 2 - 4 7 1 2 3 号公報

## 【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 7

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【 0 0 2 7 】

## 【表 3】

表 3：各化粧料の評価結果

項目	固形化粧料 4	比較例 4	比較例 5	比較例 6
粉体組成物 2	60 質量部	35 質量部	75 質量部	60 質量部
油性組成物 1	40 質量部	65 質量部	25 質量部	別組成
硬度 (20℃)	40	16	74	43
SPF	43	36	33	37